

帰敬式を問う 帰敬式が問う

■「剃刀の儀」

帰敬式についてのお話を聞いていて、ふとある疑問が浮かんできた。「剃刀の儀」は釈尊出家の際に剃髪した姿を模しているとの話を聞き、「真宗の教えは出家せずとも在家生活の中で聞いていくもの。なぜ出家を象徴する剃刀の形をとるのか」という、いちやもんにも似た疑問である。

剃刀の儀は、束ねた髪=髻(もとどり)をおろす(剃髪する)ことをかたどっており、髻は「勝他(権力)」「利養(財力)」「名聞(名声)」を求める慢心を表し、慢心に満ちた「虚飾の生活」を離れ「真実の生活」を求め歩み出すことが願われている。だとすれば、三つの髻で表された慢心(煩惱)などとも剃り捨てることはできず、また、真宗の教えは、それを剃り捨てよという教えでもないはずである。ならば剃刀の形をとる意味とは?

ここまで書いておいてなんだが、剃刀の儀を否定し、その必要性を問うつもりはない。何が言いたかったのかと言えば、これまで当たり前にしてやりすごしてきた仏事に対し、遅ればせながら私の中に「問い」が芽生えたその事実である。

■「鏡餅」と「歳神様」

次に生まれた問いは帰敬式には関係ない「鏡餅」についてであった。正月にはお寺でも各家庭でも鏡餅をお供えするが、なぜ華東でなく鏡餅なのか。

鏡餅について調べてみると、神社においては鏡をご神体または神様の象徴とするが、丸い餅を鏡に見立てて、家々に新年の幸せをもたらす歳神様をお迎えするために飾るとのこと。正月過ぎに歳神の魂が宿った餅を割って(鏡開きをして)食すのは、無病息災などのご利益を得るためだそう。お年玉の語源も、歳神の魂「歳魂」からきているとの説がある。

そのことを知り、真宗(仏教)の荘厳(お供え)としていかなものかと思ひ、今年廃止した。そのことを仲間に話すと、「ただ単に鏡餅配りが面倒なだけなんじゃないか」と鋭い突っ込みが入ったが、確かにきっかけはそこだった。

年末年始に大変な思いをして準備して配っても口にして頂けるかどうかかわからず、また鏡餅配りが年頭志を請求しに行っているように思えて心苦しく、廃止したいと思っていたのは事実である。

ただ、他宗の方が「食べて頂くために袋に無病息災のご利益があると付加価値を記して配る」とはつきり言うのを聞いて、もらう側にご利益を求める気持ちがあるのなら、鏡餅を配ることでその意識を助長するのではと危惧したのも事実である。

■真宗門徒(僧侶)の証

思えば仏事に対する疑問やこだわりは、若い時はたくさんあった。「分刻みのお盆参りはただお経の配達をしているようで、それが真宗の仏事と言えるのか」との疑問を常に抱えていた。留守でも鍵が開けてあるお宅は「家の人がお参りしないと意味がない」と何度も伺ったが、今では留守でも平気で家に上がってお勤めをし、「配達終了」。

お墓を移動するので芯を抜く読経を頼まれ、「芯などはなく、そのための読経であれば必要ない。もし、読経しないと災いが起こると考えるのであれば、それは亡き人を冒瀆することにならないか」と言ったことで相手の気分を害し、その家としばらく疎遠になったことがある。私の考えを一方向的に押し付け、相手がお墓を大切に思う気持ちに寄り添っていなかったことは申し訳なく思うが、何も言わずに「わかりました」と引き受けることだけはしたくなかった。それは「初七日を葬儀の日にしてほしい」と『ついでの初七日』の依頼を受ける時も同じである。

が、いつしか青臭い疑問もこだわりも失いつつある。慣習に流され妥協し、伝統だからと目をつぶっ

ているうちに、その意味を問うことも伝えることもしなくなってきた。果たして私のやっていることは他宗の僧侶とどこが違うのか。真宗門徒(僧侶)の証は一体どこにあるのか。

帰敬式に携わることで様々な疑問が呼び起こされ、「どこに立ち、どこに向かい、どんな歩みをしているのか」との問いとなり、私を仏弟子・真宗門徒の出発点に立ち返るよう促された気がする。

■あるものにこだわらんで、一からはじめまいか

長い余談を経て本題に入る。教区やセンターの既存の事業をそのまま見直そうとしても、多分どれも必要だとの結論になろう。ならば思い切ってゼロにして、地区や部会の壁をとっばらい、一から構築してみてもどうだろうか。

青少年部会で提唱された「サイクル教化」の発想を元に、帰敬式を真宗門徒の生まれる種として教化の中心に据える。大地を耕し、肥料をまく。種を植え、芽が出るよう水や栄養を与える。葉が茂り、実がなるように手入れする。熟した実が大地に落ちて肥しとなり、新たな種が芽吹いていく。

種を植え育てるためには何をすべきか、そのために育てる側は何を学び、自身もどう育っていくのか。帰敬式を起点とし、そこから枝葉が広がっていくような事業を模索する。それ以外でどうしても必要だと思われるものは別の鉢(センター)で育てていく。身銭を切る覚悟をもって。

最後に要望を。帰敬式の記念品に、法名を入れて目に付く所に掛ける「法名額」はどうかと提案したが、誰も話に乗ってこない。金額がネックなら帰敬式推進のために、教区で一部を負担する予算立てを願う。「身銭を切る覚悟」はどこへ…

帰敬式推進室 室長

高山2組 還來寺住職 帰雲真智



★センター・別院からのお知らせ★

企画会議各組懇談会を開催 各組の教化の現状を聞き取る 企画会議

教化の三本柱を踏まえ、各組とセンターとの連携について考える

このたび下記の通り、企画会議が各組に直接出向く「企画会議各組懇談会」が開催される。各組教化の現状や課題について聞き取り・意見交換を行い、各組とセンターとの連携強化のためには何が必要なのかを確かめ、そのことから、高山地区の教化として今後センター教化に求められるものは何かを明らかにしていく。

センター設立以来、高山地区の教化体制については、組とセンターとの連携を充実させていくことの大切さが示されてきた。第2期を迎え、改めてセンター理念(教化の三本柱)の確認を行い、センターと各組との連携が必要であることの認識を双方が持ち、より連携を強化していくことが願われる。

なお、各組での懇談会実施内容を取りまとめて、「センターだより」に掲載し、地区内での教化の課題共有と、センター教化の視点の確認を行う。掲載は2024年度初めころ(8~10月号)を予定。

各組開催予定

高山1組	7月18日	益田組	5月27日
高山2組	6月24日	朝高組	4月23日(終了)
吉城組	7月12日	荘白川組	5月19日
清見組	3月22日(終了)		

組内参加対象

「組会」又は「組教化委員会」を中心に組長が指名
※門徒会員・坊守を含めていただくのが望ましい。
※出席者については各組の判断による。

センター出向者

センター長・正副座長2人(又はどちらか)・事務局員

吉城組子ども会 清見組・朝高組に続いて3カ組目 青少年部会

4月5日(金)、浄慶寺を会場に吉城組子ども会が開かれた。当日は年中から小学6年生まで13名の子どもたちが集い、おつとめとアニメ仏典童話上映、お話ののち、念珠づくりや紙タワー、また多くの風船を使ったさまざまな遊びに熱中した。子どもたちからは「またこういう子ども会があったら絶対来る!」「これからも遊びに来たい」との元気な声が聞かれた。



久々に「現代の問題講座」開催—安田菜津紀講演会 伝道部会

4月6日(土)、教区改編後、センターとして初めて「現代の問題講座」が開催され、約200人の方々が聴講された。今回は、サンデーモーニング(テレビ朝日)にもコメンテーターとして出演されているフォトジャーナリストの安田菜津紀氏をお招きし、「紛争地、被災地に生きる人々の声—取材から見えてきたこと」をテーマにお話しいただいた。

フォトジャーナリストとして、世界中の様々な場所に赴き取材されておられますが、今回は特にガザ地区、そして東日本大震災で、安田氏が直接出会った人たちの姿をご紹介いただき、出会った人たちの息遣いを感じながら、紛争地、震災の現実に触れられるような会となった。改めて、報道ということの意味を考えさせられる場もなった。



高山地区における「組門徒会研修」について 組門徒会改選に伴い研修実施形態を変更 育成部会

研修内容に【必須項目】と【任意項目】を設定！！

組門徒会員研修については、教区改編を機に「教区組門徒会総合研修計画」が立てられ、3年間、各組での研修が実施されてきました。

このたび、本年3月の組門徒会員の改選に合わせて、これまでの研修計画を検討し、研修内容を新たに【必須項目】と【任意項目】に分けて実施いただくよう変更をいたしました。任期中6回の研修で、3回の講習については各組で研修項目を選択いただき、各組において組門徒会研修の計画を立て、実施いただきますようお願い申し上げます。

■「高山地区組門徒会研修」・「全飛組門徒会員研修」実施概要

各地区の特性を踏まえて実施していくことから、高山地区では「組門徒会研修」実施概要が作成されました(8月発行の『ひだ教報』(第100号)に掲載)。各組研修の実施回数は年2回(任期中6回)を基本とし、テキストは『真宗の教えと宗門の歩み』としますが、必要に応じて各組・各講師が作成した資料を用いることも可能です。

第1回 既に【必須項目】の「組門徒会とは」のテーマで、各組実施済み。

第2回 高山地区の全組門徒会員に呼びかけ、「全飛組門徒会員研修会」を【必須項目】「宗門の財務機構-同朋会運動の精神を視座に-」をテーマに開催予定。

第3回以降

【必須項目】は必ず、【任意項目】から3テーマを選び、各組で計画を立て実施。各組の事情を踏まえて、有効かつ無理のない形で実施ください。なお、複数のテーマを兼ねた研修も可能なので各組でご検討ください。

※詳しくは、右表の高山地区「組門徒会研修」内容を参照。

■講師の選定と「組門徒会本廟奉仕」一組を挙げての組門徒会研修の実施を！

講師については、組内の育成員の学びという視点で、基本的に組内から選定いただきますようお願いいたします。組門徒会研修を組を挙げての事業としていただき、組門徒会員と組内寺族との交わりが、より密となることが願われます。

また、「組門徒会本廟奉仕」については、真宗本廟に上山し奉仕聞法することを目的とします。任期中に一度は実施ください。

高山地区「組門徒会研修」内容

年度	開催	高山地区内容
2023年度	第1回 3・4月頃	【必須項目】 「組門徒会とは」-組門徒会にかけられた願いと任務- ※各組実施済み。
2024年度	第2回 10月頃	「全飛組門徒会員研修会」として開催 【必須項目】 「宗門の財務機構」-同朋会運動の精神を視座に- 【任意項目】 別院本堂の仏具おみがき 会場:高山別院本堂
	第3回	第3～6回については、以下の項目からテーマを設定し、各組で計画を立てて実施する。 【必須項目】(必ず実施ください) ①「真宗同朋会運動とは」 -真宗同朋会運動の願いと教団問題-
2025年度	第4回	【任意項目】(どれを選ぶか自由、各組でご検討ください) ①「宗祖親鸞聖人のご生涯」 ②「真宗の教え」-正信偈に学ぶ- ③「真宗門徒の生活」-お内仏のお給仕と聞法- ④「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」(本山慶讃法要、教区教化方針) (センター及び育成部会より推奨項目)
	第5回	⑤同朋唱和(教化の三本柱)…願いやお勤め練習 ⑥青少年(教化の三本柱)…家庭内相続、お内仏 ⑦帰敬式(教化の三本柱)…仏弟子としての名告り ⑧高山別院の歴史に学ぶ ⑨その他、各地域の寺院の歴史や、課題をテーマに設定した研修も可。
2026年度	第6回	

各組において、どのような組門徒会研修とするのかをお話し合いいただき、各組の事業計画に盛り込んでいただくことが願われます。

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』5月

大泉 信吾氏 (荘白川組明善寺住職)
山本 憲人氏 (荘白川組寶藏寺住職)



WEB一口法話はこちら

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

真宗公開講座一第7回ご案内

第7回 5月12日(日) 14:00～

「佐奈姫さまとお念仏」

三島多聞氏 (高山別院輪番) 高山1組真宗の会主催



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2024年5月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	水	13:30	☑ 青少年会議	センター室
2	木			
3	金	13:00	☑ 三日の御坊 法話:細川宗徳氏(蓮乗寺住職)	本堂
4	土	7:00	☑ 半日華	
5	日			
6	月			
7	火			
8	水	15:00	☑ 帰敬式推進室	
9	木		☑ 開頭部会・育成部会代表者会議	
10				
11	土	13:00	☑ 大谷婦人会定例 法話:三島輪番	御坊会館
12	日	11:00 13:30	☑ 初まいり式 ☑ 真宗公開講座(講師:三島輪番)	本堂 御坊会館
13	月	7:00 13:30 13:30	☑ 前住上人ご命日 ☑ 解放推進協議会 公開学習会 ☑ 高山2組組会	本堂 岐阜高山教務所 研修室
14	火			
15	水	7:00 13:00	☑ 半日華 ☑ 東海連区坊守研修会	ソフトピアジャパン
16	木			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
17	金			
18	土			
19	日	13:30	☑ 荘白川組企画会議懇談会	平瀬文化会館
20	月	13:30 19:00	☑ 教区教化委員会 ☑ 荘白川組真宗公開講座	WEB
21	火			
22	水			
23	木	13:30	☑ 教区坊守研修会(高山にてリモート可)	岐阜高山教務所
24	金			
25	土			
26	日	7:00	☑ 半日華	
27	月	13:00 14:00	☑ 親鸞聖人御逮夜 ☑ 益田組企画会議懇談会	本堂 永養寺
28	火	13:00	☑ 親鸞聖人御命日 法話:森 恒河氏(秋聲寺住職)	本堂
29	水	19:00	☑ 教化研究所	研修室
30	木			
31	金	15:30	☑ 高山1組末日子	研修室

2024年6月 ※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
10	月	13:30	☑ 企画会議	14	金	19:00	☑ 益田組真宗公開講座
13	木	13:30	☑ 高山2組組会	17	月	13:30	☑ 学場委員会作業